

総合学科の特性と海外ネットワークを生かしたESD実践

筑波大学附属坂戸高等学校は平成6年に農業科、工業科、家政科を有する専門高校から**総合学科高校**へ転身してから22年が経過した。「総合学科」とは、普通科、専門学科に次ぐ第三の学科であり、普通教科と専門教科の中から興味や進路に応じて自分だけの時間割を作成することができることが特徴となる。そうした教科横断的な学習を通して、**世の中のあらゆる課題に対して多角的なアプローチから持続可能な社会の創造に寄与**ことができ、「実学をふまえた総合学科教育そのものがESD実践である」という認識のもと、「総合学科の特色を生かした多角的アプローチによるESD実践」というテーマを掲げ、平成23年1月にユネスコスクールに加盟した。右図に示すように、国際教育、環境教育、福祉教育、食育などの多様な教育分野はもちろんのこと、学校間交流や地域連携、実際に街中に出て活動する社会貢献など、多種多様な教科・科目を有する総合学科だからこそ取り組めるESD実践に取り組んでいる。特に、**アジアの高校生とともに学びあう取り組み（高校生国際ESDシンポジウム、国際フィールドワーク、ESD Rice Project）**をいくつか立ち上げ、総合学科で学んだ成果をアウトプットする場として力を入れている。これらの活動には英語や国際系に関心の強い生徒だけでなく、むしろ農業や環境、福祉や商業を専門とする生徒が中心となって取り組まれてきた。専門教科を中心に学んでいる生徒が英語などの外国語を駆使して自分たちの学びを伝えようとしており、総合学科高校として理想の国際教育が実践できた。平成26年度からは文科省**スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH)**に指定され、ユネスコスクールや海外交流校とのネットワークを最大限に活用しながら、総合学科ならではのESD実践によるグローバル人材の育成に邁進していきたい。



国際フィールドワーク



インドネシアに3週間滞在し、インドネシアの森が100年後も、持続的に存在していくための方法を、現地の高校生と一緒に考え、解決に向けた提案や活動を行った。姉妹校のポゴール農科大学附属コルニタ高校、インドネシア林業省附属高校の生徒とチームを組んで、教育班（国立公園周辺の学校で、環境に関する出前授業を実践）、環境班（ゴミ問題を解決する班）、産業班（森を伐採せずに、生活を営んでいく方法やビジネスの提案）に分かれて精力的に活動した。

高校生国際ESDシンポジウム



アジア4ヶ国（インドネシア、タイ、フィリピン、台湾）から生徒・先生方を招待して「高校生国際ESDシンポジウム」を毎年開催している。それぞれの学校によるプレゼンテーションに加え、参加者全員によるパネルディスカッションも行った。各校の生徒はそれぞれの取り組みを共有し、帰国後もさらなる取り組みを進める決意を胸にしていた。筑波大学でのシンポジウムでは、海外から招聘した研究者の方との間で活発な質疑応答も行われ、各校の生徒はそれぞれが持つ考えを共有し、その経験をそれぞれの国に持ち帰ってさらなる取り組みにつなげることを誓い合った。また、放課後に行われた文化交流会では本校の他の生徒たちも参加し、互いの国の文化を紹介しあいながら相互交流を深めている。

ESD Rice Project



アジア6カ国（日本、韓国、タイ、インドネシア、フィリピン、インド）で「お米」を通じた国際協働学習に取り組む「ESD Riceプロジェクト」に参加した（2014年度）。筑波では総合学科の特徴を生かして、農業の授業だけでなく、家庭科、地理、国際、福祉の授業の生徒が参加して、お米を通じた多様な学びを展開した。近隣中学の特別支援学級の生徒が田んぼを見張る“かかし”をつくってくれるなど、多様なコラボが生まれている。11月のESDシンポジウムの際には収穫したお米をアジア各国のお米と食べ比べる“Potluck Party”を開催した。